

2022年11月14日

実行委員  
エキストラ  
審査員  
参加者  
様

救助救命本部長

## 第7回JLAシミュレーション審査会【横浜海の公園会場】

### 実施細部 通知

1. 実行委員会・エキストラ・審査員構成を次ページ以降に表記

2. タイムテーブルを次ページ以降に表記

3. 審査票

別紙1から別紙5の通りとします。

4. 配点割合

別紙6の通りとします。

5. 感染対策など

別紙7-1、7-2の通りとします。

当該参加チームは、審査会当日14日前（2022年11月6日）からの体調管理チェックシートを活用し、審査会当日に参加者分を受付時に提出願います。

審査員及び係員も、審査会当日14日前（2022年11月6日）からの体調管理チェックシートを活用し、審査会当日に受付時提出願います。

6. その他

変更があった場合は、審査会当日の開会式で伝達します。

問合せ先

公益財団法人日本ライフセービング協会

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-1-18 トップスビル 1F 担当 中山

T E L : 03-3459-1445 Mail : nakayama@jla.gr.jp

(問合せ時間 12:00-18:00)

# 実行委員会配置

実行委員長 統括 進行

菊地 太 救助救命本部 副本部長

次番者テント担当 (◎はリーダー、○はサブリーダー)

1. ◎小林 俊樹 パトロールレスキュー委員会 副委員長
2. ○栢見 吉朗 パトロールレスキュー委員
3. 佐々木 柊 成城学園高等学校ライフセービングクラブ

実施者チームテント担当 資器材定位置確認担当 (◎はリーダー、○はサブリーダー)

1. ◎内田 直人 防災対策委員会 委員長
2. ○末次 尚之 パトロールレスキュー委員
3. 齊藤 弘桔 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
4. 高橋 響助 成城学園高等学校ライフセービングクラブ

審査票集計担当 (◎はリーダー、○はサブリーダー)

1. ◎石川 仁憲 救助救命本部 本部長
2. ○佐藤 洋二郎 アカデミー本部副本部長

テント等会場設営撤収担当 (◎はリーダー、○はサブリーダー)

1. ◎小林 俊樹 パトロールレスキュー委員会 副委員長
2. ○内田 直人 防災対策委員会 委員長
3. 栢見 吉朗 パトロールレスキュー委員
4. 佐藤 文机子 パトロールレスキュー委員
5. 末次 尚之 パトロールレスキュー委員
6. 中川 健 辻堂ライフセービングクラブ
7. 中山 昭 J L A事務局
8. 松本 貴行 教育本部 本部長
9. 関口 義和 アカデミー本部 サーフライフセービング委員会 委員長
10. 上野 凌 スポーツ本部 副本部長
11. 瀧澤 杏珠 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
12. 松本 莉奈 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
13. 上浦 一輝 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
14. ストラウサー 愛果 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
15. 浜島 花菜子 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
16. 藤野 柚希 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
17. 三ツ井 麗 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
18. 西森 勇太郎 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
19. 倉沢 重奈 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
20. 正木 柚杏 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
21. 土田 波音 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
22. 廣井 柚樹 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
23. 綿引 咲良 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
24. 吉田 美登 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
25. 堀田 怜郎 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
26. 堀川 雅貴 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
27. 佐々木 柊 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
28. 齊藤 弘桔 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
29. 高橋 響助 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
30. 榎本 敢太 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
31. 川崎 真知 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
32. 男澤 壮真 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
33. 作田 琉珂 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
34. 水野 隼 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
35. 亀田 実玖 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
36. 高橋 蒼平 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
37. 吉田 陽向 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
38. 古屋 凜夏 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
39. 立石 遼太郎 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
40. 中川 はな 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
41. 石黒 徳 成城学園高等学校ライフセービングクラブ

記録担当成城学園高等学校ライフセービングクラブ

1. 記録用静止画撮影 菊地 太 救助救命本部 副本部長
2. MD 記録用動画撮影 川崎 真知 成城学園高等学校ライフセービングクラブ

上記に係員の係員を配置しましたが、**審査員、エキストラ、J L A事務局の皆さんのご支援が必要**ですので、お手すきの際は、各セクションご協力のほど宜しくお願い致します。

# エキストラ

- 協力公的救助機関、医療機関車両、救急隊員資器材等  
横浜市消防局 金沢消防署
- 救急隊員エキストラ  
横浜市消防局 金沢消防署 救急隊  
主幹 調整中（調整中）様  
主任 調整中（調整中）様  
主任 調整中（調整中）様
- 救急隊員エキストラ支援  
救急隊員エキストラ支援 東京消防庁ライフセービング部会  
本多 辰也 様  
後関 裕輔 様  
調整中 様
- エキストラ（◎はリーダー、○はサブリーダー）  
◎佐藤 文机子 パトロールレスキュー委員  
○中川 健 辻堂ライフセービングクラブ  
瀧澤 杏珠 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
松本 莉奈 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
上浦 一輝 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
ストラウサー 愛果 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
浜島 花菜子 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
藤野 柚希 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
三ツ井 麗 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
西森 勇太郎 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
倉沢 重奈 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
正木 柚杏 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
土田 波音 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
廣井 柚樹 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
綿引 咲良 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
吉田 美登 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
前田 怜郎 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
堀川 雅貴 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
榎本 敢太 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
男澤 壮真 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
作田 琉珂 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
水野 隼 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
亀田 実玖 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
高橋 蒼平 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
吉田 陽向 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
古屋 凜夏 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
立石 遼太郎 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
中川 はな 成城学園高等学校ライフセービングクラブ  
石黒 徳 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
- AED リモコン操作 トランシーバーによる仮想消防 ダミー容態変化呼称  
菊地 太 救助救命本部副本部長

## 審査員構成

- 2022年11月20日（日）神奈川県横浜市 横浜海の公園会場  
長 横浜市消防局 金沢消防署 調整中（調整中）様  
員 横浜海上保安部 警備救難課 専門官 中野 孝之（なかの たかゆき）様  
員 神奈川県 金沢警察署 地域課 地域担当次長 安藤 優（あんど う）様  
長 波崎サーフライフセービングクラブ 宮澤 純  
員 成城学園高等学校ライフセービングクラブ 瀧藤 さくら  
員 逗子ライフセービングクラブ 平井 寿奈  
長 横浜海の公園ライフセービングクラブ 座間 吉成  
員 JLAスーパーバイザー 中見 隆男  
員 教育本部 本部長 松本 貴行  
長 アカデミー本部 サーフライフセービング会委会 委員長 関口 義和  
員 スポーツ本部 副本部長 上野 凌  
M JLAメディカルダイレクター 田中 秀治  
M JLAメディカルダイレクター 朽方 規喜  
審 救助救命本部長 石川 仁憲  
計 救助救命本部副本部長 菊地 太
- 審査票担当（各審査員の氏名前に記載されている記号は以下の通りとします。）  
長 監視長審査担当  
員 監視員審査担当  
M 救護手技審査担当  
審 審査長全体審査担当  
計 時間審査担当  
※ 審査票は、別紙の通りとします。

2022年11月20日(日)神奈川県横浜市 横浜海の公園 タイムテーブル

時間	項目
08:00	係員集合 会場設営開始
09:00	会場設営完了 エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明開始
09:30	エキストラ・審査員・救急隊エキストラ説明完了
09:35	実施チーム受付開始
09:50	全実施チーム参加者本部テント前集合 開会式に伴い集合
09:55	<p>主催者挨拶 日本ライフセービング協会 救助救命本部本部長 石川 仁憲</p> <p>ご挨拶 横浜市消防局 金沢消防署 調整中(調整中)様</p> <p>ご挨拶 第三管区海上保安本部 警備救難部 救難課長 寺島 竜也(てらしま たつや)様</p> <p>紹介 公益社団法人日本水難救済会 理事長(元第三管区海上保安本部長) 遠山 純司(とおよま あつし)様</p> <p>紹介 公益社団法人日本水難救済会 常務理事(前海上保安学校長) 江口 圭三(えぐち けいぞう)様</p> <p>紹介 審査員 横浜市消防局 金沢消防署 調整中(調整中)様</p> <p>紹介 審査員 横浜海上保安部 警備救難課 専門官 中野 孝之(なかの たかゆき)様</p> <p>紹介 審査員 神奈川県 金沢警察署 地域課 地域担当次長 安藤 優(あんどう ゆう)様</p> <p>■救急隊員エキストラ 横浜市消防局 金沢消防署 救急隊</p> <p>主幹 調整中(調整中)様</p> <p>主任 調整中(調整中)様</p> <p>主任 調整中(調整中)様</p> <p>■救急隊員エキストラ支援 東京消防庁ライフセービング部会</p> <p>本多 辰也 様</p> <p>後関 裕輔 様</p> <p>調整中 様</p> <p>紹介 審査員 波崎サーフライフセービングクラブ 宮澤 純</p> <p>紹介 審査員 成城学園高等学校ライフセービングクラブ 瀧藤 さくら</p> <p>紹介 審査員 逗子ライフセービングクラブ 平井 寿奈</p> <p>紹介 審査員 横浜海の公園ライフセービングクラブ 座間 吉成</p> <p>紹介 審査員 教育本部 本部長 松本 貴行</p> <p>紹介 審査員 アカデミー本部 サーフライフセービング委員 会委員長 関口 義和</p> <p>紹介 審査員 スポーツ本部 副本部長 上野 凌</p> <p>紹介 審査員 J L A M D 国土館大学大学院救急システム研究科 教授 田中 秀治 先生</p> <p>紹介 審査員 J L A M D 南多摩病院 血管外科部長 医師 朽方 規喜 先生</p> <p>紹介 審査員 J L A スーパーバイザー 中見 隆男</p> <p>事務連絡及び補足説明</p>
10:30	第1回目実施 鎌倉ライフガード
10:45	第2回目実施 館山サーフライフセービングクラブ
11:00	第3回目実施 九十九里ライフセービングクラブ鋸南
11:15	第4回目実施 銚子ライフセービングクラブ
11:30	第5回目実施 大竹サーフライフセービングクラブ
11:45	第6回目実施 常陸サーフライフセービングクラブ
	昼食
12:30	第7回目実施 波崎サーフライフセービングクラブ
12:45	第8回目実施 西浜サーフライフセービングクラブ
13:00	第9回目実施 成城学園高等学校ライフセービングクラブ
13:15	第10回目実施 逗子ライフセービングクラブ
13:30	第11回目実施 鹿嶋ライフガードチーム下津海水浴場
13:45	第12回目実施 鹿嶋ライフガードチーム平井海水浴場
14:00	第13回目実施 湯河原ライフセービングクラブ
14:15	第14回目実施 横浜海の公園ライフセービングクラブ
14:40	<p>■集合写真</p> <p>各公的救助機関、J L A メディカルダイレクター、地域代表審査員、審査長の講評表彰</p> <p>審査会総括 実行委員長(救助救命副本部長) 菊地 太</p>
15:50	<p>■実施チーム 撤収は審査員以外協力</p> <p>本部テント2張以外は撤収開始 車内積載開始 その後 事務連絡 全係員解散 日没時間 16:33</p>

※すべての事項は進行によって早まる可能性があります。

※エントリーの早かったチームは実施順序が後になっています。

## 服装など

### 1. 実施チーム

夏期監視業務中の服装とします。必要に応じて監視業務中の防寒対策可とします。ただし J L A から配付や販売の **パトロールユニフォーム** については原則 **2020 年製以降** を使用し、記録写真が今後の広報活動に使用できるよう配慮願います。

監視長実施者識別のため、運営側が用意したビブスを一番外側に着用予定です。

### 2. 実施隊（救急隊員）

災害対応時の服装とします。

### 3. エキストラ

役どころに応じて別途指示します。各自防寒対策願います。

### 4. 審査員

随意としますが、審査員の腕章を着用とします。各自防寒対策願います。

### 5. 記録（静止画担当・動画担当）

随意とします。各自防寒対策願います。

## 注意事項

1. **実施チームは、実施時間 20 分前には、係員から指定された次番者テントに集合し、審査開始まで離れないでください。**
2. 想定終了後は、実施チームは速やかに使用資器材を元の位置に戻し、次番チームの進行の妨げにならないよう配慮してください。
3. 前番の実施チームの審査はモラルの範囲で見ないものとします。
4. 審査実施終了後チーム及び見学者は審査実施を見学し、見取りトレーニングとしての参加を推奨しますが、審査未実施チームへの想定内容など情報漏えいは禁止とします。
5. 審査中に危険が伴うと審査員によって判断された場合は、想定終了前であっても中止と指示する可能性があります。審査中であっても審査員の指示があった場合は、速やかに従ってください。
6. 審査結果に伴い、優秀な実施チームを閉会式で発表します。また、審査員から上がった検討・推奨事項は、2022 年 2 月 3 日迄に公式 HP など公表します。来年のパトロール活動や審査会及び普段の連携トレーニングに活かしてください。
7. **想定及び J L A 側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。**



# 監 視 長 審 査 票

番号	項目	小項目	点数				小計	
1	継続監視対応	状況に合わせた継続的な監視体制を確保できていたか	1	2	3	4		
2		救護活動に対しての指示は的確であったか	1	2	3	4		
3		全体の監視員配置を把握していたか	1	2	3	4		
4	有事対応	公的救助機関対応	傷病者の観察情報を把握していたか	1	2	3	4	
5			関係者及び周囲の状況情報を把握していたか	1	2	3	4	
6			観衆への協力を含め、活動依頼などがされていたか	1	2	3	4	
7			公的救助機関が到着する前から、引き継ぐことを考え指示し行動させていたか	1	2	3	4	
8			搬送リレーの一員として協力し、公的救助機関の現場早期出発へ寄与できていたか	1	2	3	4	
9			公的救助機関への申し送りは十分であったか	1	2	3	4	
10			監視長から監視員への指示は良好であったか	1	2	3	4	
11			指示に対して監視員からの応答を確認していたか	1	2	3	4	
12			継続監視を含め、全体を把握していたか	1	2	3	4	
13	状況に合わせた対応	関係者に対し、接遇に配慮できていたか	1	2	3	4		
14		危険行為がなかったか	1	2	3	4		
15		資器材を丁寧に取り扱いわせていたか	1	2	3	4		
16	監視長としての指揮項目は十分であったか		1	2	3	4		
17	必要に応じて声の抑揚を使い分け、効果的な指示ができていたか		1	2	3	4		
18	士気は旺盛だったか		1	2	3	4		
19	感染防止対策は十分であったか	<b>最大13点</b>					点	
20	総括点	<b>最大15点</b>					点	
		<b>合計得点 100点満点中</b>					点	

**検 討 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)**

**推 奨 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)**

**審査員氏名**

**実施チーム名**

# 監視員審査票

番号	項目	小項目	点数					小計
1	継続監視対応	他の監視員との連携は的確であったか	1	2	3	4	5	
2		救護活動に対する行動は的確であったか	1	2	3	4	5	
3	有事対応 公的救助機関対応	監視長の指示のもと、組織的な活動ができていたか	1	2	3	4	5	
4		傷病者の観察方法は的確であったか	1	2	3	4	5	
5		公的救助機関への協力体制は十分であったか 搬送リレーの一員として協力し、公的救助機関の現場早期出発へ寄与できていたか	1	2	3	4	5	
6		公的救助機関への申し送りは十分であったか	1	2	3	4	5	
7		他の監視員との連携は的確であったか 知り得た情報を監視員間で共有できていたか	1	2	3	4	5	
8	状況に合わせた対応	周囲の自然環境などを考慮して活動できたか	1	2	3	4	5	
9		関係者に対し、接遇に配慮できていたか	1	2	3	4	5	
10		資器材の取り扱いは習熟していたか	1	2	3	4	5	
11		観衆に配慮した行動ができていたか	1	2	3	4	5	
12	士気は旺盛だったか		1	2	3	4	5	
13	感染防止対策は十分であったか	<b>最大20点</b>					点	
14	総括点	<b>最大20点</b>					点	
		合計得点	<b>100点満点中</b>					点

検 討 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

推 奨 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

審査員氏名

実施チーム名



## 救 護 手 技 審 査 票

番号	項目	小項目	点数	小計
1	傷病者 A に対して	傷病者への適切な声掛けや説明の対応は適切であったか	1 2 3 4 5	
2		クラゲ受傷部位の観察と手当は適切であったか	1 2 3 4 5	
3		鼻出血の手当は適切であったか	1 2 3 4 5	
4	傷病者 B に対して	傷病者の観察は適切であったか	1 2 3 4 5	
5		CPA の判断（呼吸なし、脈なしは表示、死戦期呼吸ではない）は適切であったか 観察はできていたか	1 2 3 4 5	
6		救急要請は適切であったか	1 2 3 4 5	
7		CPR の実施は適切であったか	1 2 3 4 5	
8		胃内容物逆流対応（逆流 2 回の対応、口腔内清拭及び確認）は適切であったか	1 2 3 4 5	
9		AED 装着（細動なし）の対応は適切であったか	1 2 3 4 5	
10		CPR 中断の判断（意識回復、回復体位）逆流し口腔内清拭などの対応は適切であったか	1 2 3 4 5	
11		救急搬送拒否の対応（立ち上がりの制止、適切な説明）の対応は適切であったか	1 2 3 4 5	
12	安全管理 連携	感染防止などに配慮した行動であったか	<b>最大10点</b>	点
13		監視員自身の安全管理は徹底されていたか	1 2 3 4 5	
14		資器材を丁寧に取り扱いしていたか	1 2 3 4 5	
15		公的救助機関への申し送りは的確であったか	1 2 3 4 5	
16	総括点	<b>最大20点</b>		点
	合計得点	<b>100点満点中</b>		点

検 討 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

推 奨 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

審査員氏名

実施チーム名

# 審査長全体審査票

番号	項目	小項目	点数				小計	
1	継続監視対応	状況に合わせた継続的な監視体制を確保できていたか	1	2	3	4		
2		救護活動に対しての指示は的確であったか	1	2	3	4		
3		全体の監視員配置を把握していたか	1	2	3	4		
4	有事対応	公的救助機関対応	監視長の指示のもと組織的な活動ができていたか	1	2	3	4	
5			傷病者の観察方法は的確であったか	1	2	3	4	
6			関係者及び周囲の状況情報を把握していたか	1	2	3	4	
7			観衆への協力を含め、活動依頼などがされていたか	1	2	3	4	
8			公的救助機関が到着する前から、引き継ぐことを考え指示し行動させていたか	1	2	3	4	
9			搬送リレーの一員として協力し、公的救助機関の現場早期出発へ寄与できていたか	1	2	3	4	
10			公的救助機関への申し送りは十分であったか	1	2	3	4	
11			監視長は、継続監視を含め、全体を把握していたか	1	2	3	4	
12	状況に合わせた対応	関係者に対し、接遇に配慮できていたか	1	2	3	4		
13		危険行為がなかったか	1	2	3	4		
14		資器材を丁寧に取り扱いさせていたか	1	2	3	4		
15		資器材の取扱いは習熟していたか	1	2	3	4		
16	監視長としての指揮項目は十分であったか		1	2	3	4		
17	必要に応じて声の抑揚を使い分け、効果的な指示ができていたか		1	2	3	4		
18	士気は旺盛だったか		1	2	3	4		
19	感染防止対策は十分であったか	<b>最大13点</b>					点	
20	総括点	<b>最大15点</b>					点	
		合計得点	<b>100点満点中</b>				点	

検 討 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

推 奨 事 項 (足りなければ裏面へ記入願います)

審査員氏名

実施チーム名

## 時間審査票 想定

番号	項目	時間	分類	点数
1	傷病者への観察開始時間は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	
2	必要であれば傷病者への気道確保は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	
3	必要であれば傷病者へのAED解析開始は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	
4	119番通報は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	
5	傷病者の救急車内収容は想定開始から	分 秒	優 良 可 他	

優=10点 良=8点 可=6点 他=5点以下 実施チームの平均タイムから分類・点数は算出します。

実施チーム名 \_\_\_\_\_

## 審査票総合評価配点割合

監視長審査票	30%
監視員審査票	50%
審査長全体審査票	10%
時間管理による審査	10%
救護手技審査票	別途評価

1. 各地域によって、審査票の担当者数に相違があるので、最終集計時の総合評価配点割合は上記を反映させます。
2. 審査票の内容・配点内訳・配点割合は変更ある可能性があります。

## 新型コロナウイルス感染症対策に基づく第 7 回 JLA シミュレーション審査会の開催について

### 記

標記の審査会を開催するにあたり、今般の新型コロナウイルス感染症拡大の状況を鑑み、下記のとおりその対策について万全を期して対応いたします。

#### 1 具体的な対策

- (1) 審査会の運営会議は、運営役員を会議室に集めずに全てオンラインで行う。
- (2) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の事前の体調確認を行う。(体調管理チェックシートを当日受付時に提出)
- (3) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の当日の体調確認を行う。(体調管理チェックシートを当日受付時に提出)
- (4) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の移動交通手段について、公共交通及車両移動の際は、マスクを着用し、換気に務め、密にならないように分かれて移動する。
- (5) 開・閉会式では、全ての関係者は、マスク着用の上、2m 以上の間隔をとって海岸・屋外で行う。
- (6) 審査会のシミュレーション想定は、感染症(ウイルス感染)を想定した事案で行う。
- (7) 審査会参加者及び運営役員、スタッフ等関係者の新型コロナウイルス感染防止対策を行う。
  - 審査会実施エリアへの入場の際は、検温と体調管理チェックシートの提出、こまめな手洗い、アルコール等による消毒を行い、マスク着用を基本とする。
  - 審査会の全ての関係者は、2m 以上の間隔を確保する。
  - 審査会中は、大きな声で会話をしないようにする。
  - 審査会で使用する資器材も、こまめにアルコール等で消毒をする。
- (8) 運営役員、スタッフ等関係者の昼食は、海岸のテント内で 2m 以上の間隔を確保して、弁当と飲み物は単独のものを用意する。
- (9) 審査会会場で発熱者、体調が悪い者が出た際は、隔離用の救護テントを設置し、医師と相談の上、地域の感染対策ガイドラインに基づいて対応する。

#### 3 新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン等

「新型コロナウイルス感染症に対するライフセーバーの水浴場監視救助活動ガイドライン 2022」を含む公式 HP に掲載される各『ライフセービングの活動ガイドライン』を確認して行動する。

以上

## 新型コロナウイルス感染症に係る体調管理チェックシート

氏 名：

所 属：

新型コロナウイルス感染防止対策のため、審査会に参加する初日の14日前から体調管理をチェックしてください。  
参加前14日間チェックについては、参加の当日に受付に提出しサインをもらってください。

### 【活動前7日間の体調チェック】

	日付	体温	咳	痰	だるさ	その他
1		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
2		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
3		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
4		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
5		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
6		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
7		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
8		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
9		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
10		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
11		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
12		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
13		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
14		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	
<b>当日</b>		℃	あり・なし	あり・なし	あり・なし	

体調などで気になることがあれば記載してください

**受付チェック**

2022年度 想定予定 当日に状況により内容が変更される場合があります。

時間	項目
0分	ライフセーバー（以下LS）の監視本部テントに実施チーム待機（固定監視）。 監視長の「準備よし」の発声後、統括の『想定はじめ』の合図で計測開始。
想定開始後 ●秒後スタート	監視本部前の波打ち際から、傷病者A（年齢実年齢、学生、川島博(かわしまひろし)若しくは弘子(ひろこ)）が、遊泳中に右下腿（右ふくらばぎ）に急激な痛みを感じ、更に、痛みにより興奮したところ鼻出血が止まらなくなった状態で監視本部まで歩いてきた（自力歩行）。時間経過とともに右下腿の痛みが増してきたと訴える。 傷病者A；監視本部前の波打ち際から自力歩行 【想定のおねらい】右下腿には触手が残っていないことから、どのクラゲ（刺胞動物）に刺されたのか不明。①適切な声掛けや説明対応ができるか。②声掛け含め傷病者Aが安心できる対応であったか。③受傷部位をよく観察し、適切な手当ができたか（お湯を使って温める。何が何でも海水をかける行為はNG）。④鼻出血に対して適切な手当ができたか。⑤感染防止対策は十分であったか。
想定開始後 ●秒後スタート	監視本部前の波打ち際から通報者が本部に駆け寄ってくる。監視本部から40m程度離れた波打ち際に溺れた人（傷病者B）が引き上げられたようだとの通報を受ける。通報者は、海の家（エイジア）の従業員（年齢実年齢、塚田陽介(つかだようすけ)若しくは冴子(さえこ)）。 傷病者B；監視本部前の波打ち際で意識不明 傷病者は呼吸をしていないように感じたので危険と判断し、監視本部に来たが、どのような状況で溺れ、救出されたか前後の状況は全く知らない。傷病者B（年齢実年齢、派遣社員、関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ)）は波打ち際の人だかりの中で側臥位。ライフセーバーの初見はレベル300。周囲にいた傷病者の友人も泣き叫ぶなど活動の弊害且つ常識的範囲で負荷想定がある（観衆による活動障害）。誰のせいだと喧嘩を始める者もいる。3回ほど制圧するような指導すると、概ね言うことを聞く。傷病者の友人のうち1名が、波打ち際20m程度の位置でうつ伏せ浮きしている傷病者を確認し、砂浜まで引き上げたと、ライフセーバーからの問いかけで回答する。 傷病者の状態：LS接触時、呼吸、脈、意識なしの状態からCPAと判断、左記状態以外は見たまま、外傷無し。（傷病者の胸部に負荷想定項目を表記する可能性あり。） 訓練用AEDを装着した場合は、解析するもショックの必要なし。ライフセーバーがCPR実施後1分で胃内容物逆流（食べ物含む）。胃内容物逆流30秒後に清明ではないものの意識回復（レベル30）、呼吸あり、橈骨動脈触れない。総頸動脈触れる。その後、「もう大丈夫だから…」と言って救急搬送を拒否する。直前まで意識レベル300であり、大量の海水を飲んでいると想定される。人定は傷病者本人に問いかけるも「もう大丈夫だから…」としか回答しない。ただし、LSの適切かつ十分な説明により救急搬送承諾（救急隊到着前）。LSが救急搬送の必要性を適切に説明できない場合であっても、救急隊到着後に「救急隊の判断としては病院受診が妥当」と救急隊により説明し承諾。 関係者の条件：LS接触時、傷病者の横に友人がいる。慌てており、LS接触後30秒間は傷病者に『大丈夫？どうしたの？』と大声で話すだけで会話にならない。氏名年齢は聞かれなければ答えない。その後、救急車呼んだのであれば荷物を取りに300m離れた海の家まで行きたいと訴え始める。行かせてしまうと救急隊到着1分後まで戻ってこなくなる。海の家に向かわせず、確保し傷病者の人定など情報収集すれば、以下の情報が得られる。 傷病者の名前（関根健介(けんすけ)若しくは信子(のぶこ)）、年齢（実年齢）、電話番号（携帯をいじって090-7000-5762）、住所（品川区とだけ回答）。 その他、友人からの情報は、一緒に飲んでいたが、傷病者はいつの間にかはぐれてしまい直前の状況は分からない。気付いた時には海にうつ伏せで浮いている状態で、呼びかけに反応がなく顔色が悪い状態だった。20分前の出来事。友人は救急車に同乗可能。 救急隊の条件：119番通報はトランシーバーにより仮想消防を呼び出せば出場する。 【想定のおねらい】溺水により当初は意識レベル300。観察や関係者から聴取した情報を理解し適切な応急手当ができるか。①傷病者の観察、②CPAの判断、③救急要請、④CPRの実施、⑤AEDの扱いが適切かつ迅速であったか、⑥CPR中断の判断、⑦救急搬送拒否の対応の各段階で適切な対応ができていないか。搬送拒否の傷病者に対しては、救急搬送が必要な理由（肺炎、呼吸悪化、湿性溺水による肺水腫や感染の恐れなど、病院受診の必要性）を適切かつ十分に説明できているか。また、⑧継続的な呼びかけや容態観察によりバイタルの変化などを記録し救急隊に引き継げるか。⑨感染防止対策は十分であったか（ファーストだけでなく、セカンド、サードの感染対策）。⑩継続監視【重要】。
想定開始 ●分●秒後	救急隊砂浜に到着（革靴で資器材多数：サブストレッチャー、隊長バック、吸引機、除細動器、酸素バック）。
想定開始 ●分●秒後	救急隊長指示で、搬送開始。それまでは救急隊は観察継続。
想定開始 9分後	車内収容完了。監視業務継続。 統括の『想定終了』の合図で終了。

想定及びJLA側が準備する資器材が、急遽変更される場合があることをご理解ください。